

◆鹿児島市火災の発生状況◆
(令和7年中)

火災件数 123件(前年133件)
死者 4人(前年7人)
負傷者 21人(前年22人)



防火の基本は家庭から

防火連だより

第19号

令和8年2月1日
発行

鹿児島市防火協力会連合会
鹿児島市消防局 予防課
TEL.099-222-0970
FAX.099-227-4119

E-mail
yobou@city.kagoshima.lg.jp

2025年度 全国統一防火標語

急ぐ日も 足止め火を止め 準備よし



春の火災予防運動

令和八年三月一日(日)～三月七日(土)

令和8年1月11日(日)「令和8年消防出初式」の様子(新栄町 消防総合訓練研修センターにて)

『火災予防の徹底を』



鹿児島市消防局

消防局長 齋藤 栄次

皆さま、いつも地域の安全・安心のためにご協力いただき、ありがとうございます。

消防職員として昭和59年に入局し節目の年を迎えます。これまで防火協力会の活動をはじめ、さまざまな取り組みを続けてこられたのは、皆さまの温かいご理解と支えがあったからこそです。心から感謝申し上げます。

さて、11月に大分市佐賀関で発生した火災は、尊い命と住宅などの財産を奪う痛ましい災害となり、「火災は決して他人事ではない」という現実を私たちに突きつけました。

鹿児島市でも、昭和の時代に防火協力会連合会発足のきっかけとなった宮元大火や、751棟が焼失し19人が負傷した郡元港大火など、過去に大きな火災を経験しています。こうした歴史は、火災が暮らしに与える深刻な影響を物語っています。

現代の火災原因は、火鉢やローソクから電化製品や暖房器具へと変わりました。特に冬場は空気が乾燥するとともに、ストーブやヒーターの使用も増えるため危険が高まります。古いコードやコンセントのほこり、たこ足配線、火気器具周囲の可燃物などは火災の引き金になります。高齢者世帯では、電熱器や電気ポットを手元に置くことで危険な環境が生まれやすく、出火時に自力で消火しようとして怪我や手遅れになるケースもあります。こうした悲劇を防ぐためには、隣近所との「心と心のふれあい」が何より大切です。日頃から声をかけ合い、地域ぐるみで防火の輪を広げましょう。

火災予防の基本は「確認・整理・連携」です。

外出前と就寝前は電源と火の元を確認し、日頃からコンセント周りの清掃と電源コードの点検を行いましょう。暖房器具や電化製品の周囲に燃えやすいものを置かないこと、住宅用火災警報器の設置と適正な維持管理も欠かせません。そして、地域で声をかけ合い、防火意識を高めることが重要です。

火災は一瞬で起こり、取り返しがつきません。地域の絆と防火意識で、命と財産を守りましょう。鹿児島市消防局は、皆さまと共に「火災ゼロのまち」を目指します。防火協力会でも、住宅用火災警報器の点検や高齢者世帯への声かけなど、地域ぐるみで取り組んでいただきますようお願いいたします。